



内川中学校

所在地：金沢市別所町中18番地

電話：076-241-4039 F A X：076-241-4039

HPアドレス：<http://cms.kanazawa-city.ed.jp/uchikawa-j/>

校長名：木村 和彦

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	4	8	7	3	22
学級数	1	1	1	1	4

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	0	13

1 平成23年度学力向上の取組内容の検証

(1) 国語科の検証

- ア 漢字テストを定期的に行い、一定の期間をおいてから同じ内容のテストをもう一度行った結果、定着が見られた。
- イ 根拠を明確にして意見を述べさせるようにしてきたことで、成績が上位にある生徒については理論的な思考力が高まってきた。

(2) 社会科の検証

- ア 資料の読み取りに時間を掛けることで資料を活用する力が備わってきたが、多面的に考察し、表現する力は弱い。
- イ ワークシートを積極的に多用することにより、授業の中で関心・意欲の向上がみられ、発表の機会が増えるとともに、基礎基本の定着が見られた。

(3) 数学科の検証

- ア 計算プリントを利用し、基礎学力の定着に結びつけることができた。
- イ 応用力を高める課題については、十分な取り組みができなかった。

(4) 理科の検証

- ア 少人数単位での観察・実験を徹底して行い、ワークシートを多用し、まとめや考察では自分の考えを書き、発表する習慣をつけるようにした。その結果、興味・関心が高まり、同時に実験・観察のスキルが高く、実践的な学力が定着した。
- イ 基礎用語や計算の確認テストなどを授業に組み込んだ結果、基礎的な学力が向上した。

(5) 英語科の検証

- ア 普段から語順を意識して英作文ができるように、意味や構造を考えながら音読を指導した結果、特に口頭での基本的な英文では、正しい語順が定着してきた。
- イ 英作文における既習の文法を活用する力の定着はまだ不十分であり、継続した取組が必要である。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科の現状分析

- ア 漢字の読みについては概ね良好である。書くことについては基礎的な漢字の習得が十分ではない。
- イ 一部の生徒を除き、思いつきの発言・発表が多い。
- ウ 長い記述を伴う問題に弱い。

(2) 社会科の現状分析

- ア 全体を通して、複数の文章資料や写真資料を多面的に活用し、複数の資料を比較考察する力が弱い。
- イ 論理的に表現する力が弱く課題がある。

(3) 数学科の現状分析

- ア 基礎的な力については、応用的な課題については、やや不慣れなところがある。
- イ 図形分野において、認識や知識が十分でない部分がある。

(4) 理科の現状分析

- ア 経験則を応用する力や文章で説明をする問題に対しての課題がある。

(5) 英語科の現状分析

- ア 口頭では基本的な語順理解はできているが、英作文では正確に記述するための書く力に課題がある。

3 学力向上の取組

(1) 国語科の取組

- ア 漢字については、日々継続した漢字練習に取り組む。
- イ 理論的に発言・発表することを意識させるよう努める。
- ウ 決まった字数内に書く活動に取り組む。

(2) 社会科の取組

- ア 複数の資料を関連させた読み取りの力や考察の技能を高めるため、授業の中で理解したことを書かせたり、発表させていくことで、資料の活用力や表現力を培う。
- イ ワークシートの活用を一層行い、事象を多面的多角的な目で見ること慣れさせることにより、基礎的事項の定着を図る。

(3) 数学科の取組

- ア 積極的に計算プリントを利用し、基礎的な処理能力の定着を図る。
- イ 文章題を多く扱い、読み取る力と論理的な思考力の向上を図る。

(4) 理科の取組

- ア 考察や理由を自分自身の言葉で説明できるようレポート等を使って表現する力をつける。また、発表し、意見を交換・論議する時間を設けることで科学的思考の力をつける。
- イ 演習時間を多くとり、振り返り学習の時間を組み込むことで、基礎的事項の知識理解の定着を図る。

(5) 英語科の取組

- ア 意味の区切り、抑揚を考えながら授業時間や家庭学習で音読を実施し、語順理解と読解力の向上を図る。
- イ 既習の単語や構文を活用した英作文を書く習慣を定着させるため、授業においてテーマに沿った作文指導を行う。

4 その他の取組

(1) 小中連携

併設の小学校と連絡を密にし、小中が共通して取り組む生徒指導や学習指導に生かしている。